

フリーフローターKG
施工要領書

フクビ化学工業株式会社

(目 次)

1.適用範囲	2
2.製品概要		
2-1 工法概要	2
2-2 特 長	2
2-3 参考納まり	2
3.材 料		
3-1 材質	3
3-2 専用工具	4
3-3 捨張合板仕様	4
3-4 床高さ調整範囲	4
4.現場フローチャート	6
5.施工手順	7
6.施工検査表	9

1. 適用範囲

本仕様書は「フリーフローア-KG」の工事に適用する。

2. 製品概要

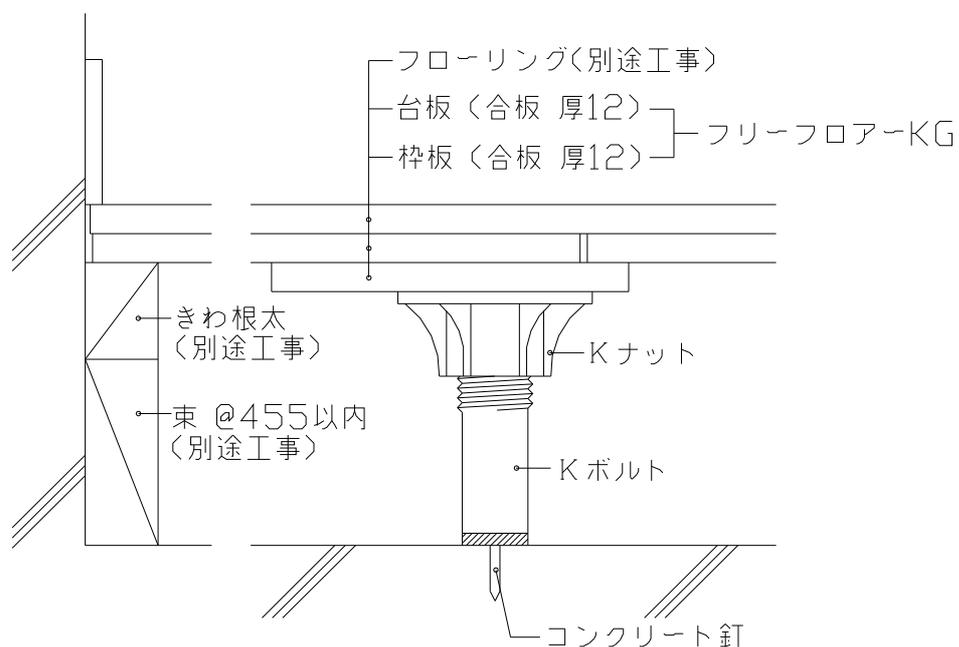
2-1 工法概要

「フリーフローア-KG」は樹脂製の支持ナットのついた床パネルからなり、その支持ナットに床高に応じた樹脂製支持ボルト（Kボルト）をつけて敷き込んで行き、床パネルの上からレベル調整し、専用のコンクリート釘で床スラブに固定して仕上げる工法です。

2-2 特長

「フリーフローア-KG」の床パネルは安全性に優れた薬剤使用した防腐・防虫・防蟻合板を使用しております。

2-3 参考納まり



3. 材 料

3-1 材質

部 材 名		材 質	備 考	
KGパネル (床パネル)	台板	防腐・防虫・防蟻処理 構造用合板12mm JAS-タイプ1 F☆☆☆☆	防腐・防蟻剤	
	枠板			
	ナット	特殊樹脂	・ナットサイズ3種類 (15mm・35mm・80mm)	
ボルト	Kボルト	ボルト	特殊樹脂	・サイズ7種類 ・ゴム座厚み5mm ・Kナット対応
		ゴム座		
	Tボルト	ボルト	特殊樹脂	・サイズ6種類 ・ゴム座厚み5mm ・Tナット対応
		ゴム座	SBR製 硬度90	
ストッパー		特殊樹脂	・Tナット使用時は 必ずストッパーを 締める。	
専用コンクリート釘 φ4×50mm φ4.5×60mm		特殊樹脂製 ^ハ ッキン付 特殊鋼	・Kボルトにはφ4 ・Tボルトにはφ4.5	

注意

きわ根太及び束は必ず加圧注入の防腐、防蟻木材または弊社で発売している防腐、防虫、防蟻の根太（束も含む）を使用下さい。

3-2 専用工具

工 具 名	用 途	
K用ドライバー T用ドライバー	床パネルのレベル調整に使用。	
ストッパー締め	Tナット使用時のストッパー締め付けに使用。	
専用ポンチ(大)	専用コンクリート釘、打ち込みに使用。	T 403 mmボルト以上
専用ポンチ(中)		T 202~336 mm ボルト用
専用ポンチ(小)		Kボルト用
専用エアガン	100V5~7kg/cm ² 空気吐出量 80l/min コンプレッサーに接続し 専用コンクリート釘を打ち込む。	

3-3 捨張合板仕様

種 類	厚 み	幅	長さ	捨張合板厚み
積層フローリング	12 mm以上	90 mm	900 mm	なし
		150 mm	1,800 mm	
ベニヤフロアー	9 mm以上	300 mm	1,800 mm	
塩ビシート				5.5 mm以上
畳				なし

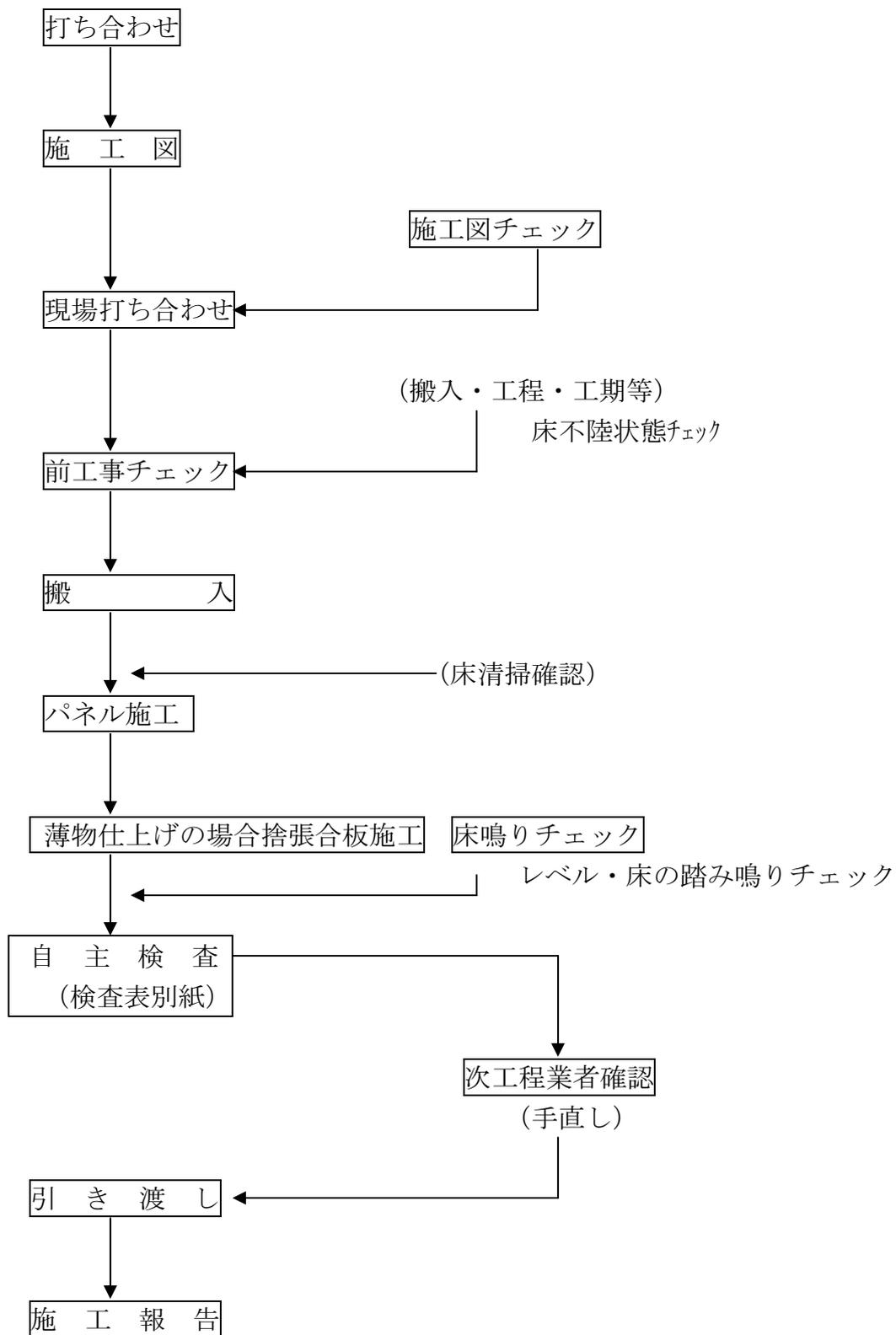
住宅用途以外に使用する場合は、捨張の厚みについて別途ご相談下さい。

3-4 床高さ調整範囲

(スラブより KG パネル天端まで)

KGパネル	Kナット	ボルト	高さ調整範囲 (mm)
台板 12mm 枠板 12mm	K15mm	Kボルト40mm	44mm~70mm
		Kボルト65mm	65mm~95mm
	K35mm	Kボルト65mm	65mm~115mm
		Kボルト85mm	85mm~135mm
		Kボルト105mm	105mm~155mm
		Kボルト125mm	125mm~175mm
		Kボルト145mm	145mm~195mm
		Kボルト165mm	165mm~215mm
	T80mm	Tボルト202mm	202mm~286mm
		Tボルト269mm	269mm~353mm
		Tボルト336mm	336mm~420mm
		Tボルト403mm	403mm~487mm
		Tボルト470mm	470mm~554mm
		Tボルト537mm	537mm~621mm

4. 現場施工フローチャート



5. 施工手順

① コンクリート床面の清掃確認

- ・コンクリート床面を清掃し、極端な凹凸のある場合は修正を依頼する。

② きわ根太の確認

- ・必要箇所にきわ根太が取り付けられており、高さも適当かチェックする。
この時、きわ根太と配管の高さについてもチェックする。
- ・ガタつきがないかチェックする。特に束が浮いていないかを確認する。

③ 第一列目の KG パネルの施工

- ・支持脚ボルトの取り付け

KG パネルの施工は割付け図に従い横一列ずつ行います。

専用ドライバーにて、先ず一列目に設置する KG パネルに支持ボルトを目測で床高に合わせて取り付けして下さい。T ボルト使用の場合はストッパーも取り付けます。

- ・KG パネルの切断が必要な場合は、壁との隙間・パネル同士の隙間は 2mm 程度を考慮しながら現場寸法に合わせて切断します。尚、立ち上がり配管がありパネルを切り欠く場合は配管との隙間は 5～10mm とします。

- ・KG パネルの設置

割付け図に従い左側から横一列に配置し、きわ根太部とパネル、パネル同士を固定します。(パネル同士の固定は 38mm ビス又は木工ボンド併用で 38mm スクリューネイルにて 225mm ピッチ以内で固定します。

パネルときわ根太の固定は 38mm ビスにてピッチ 300mm 以内、又は、木工ボンド併用にてスクリューネイル 225mm ピッチ以内にて固定。)

- ・レベル調整

一列毎に水糸を張り、専用ドライバーにてレベルを調整して下さい。

T ボルト使用の時は、必ずレベル調整後ストッパー締めにてストッパーを締め付けます。

- ・専用コンクリート釘打ち込み

専用コンクリート釘を支持脚ボルトの中へ落とし込み、エアーガン、又は専用ポンチを用いて確実に打ち込みます。

コンクリート釘打ち込みは必ず一列毎に行い打ち込んだ後、固定状況を必ず確認します。

④ 二列目からの KG パネルの施工

- ・ 一列目と同様に一列毎同様な手順で施工します。

⑤ 最終列の KG パネルの施工

- ・ 最終列は KG-3、KG-4 を用いて納めます。
この時パネルの幅は 200mm 以上となるようにします。

⑥ 床下地完了

- ・ 最後に全体のレベルを確認します。
部屋全体を歩いてみて、固定忘れ、床鳴り、床の沈み込み・浮き上がり
段差などがいないかチェックします。

⑦ 仕上げ材施工

- ・ フローリング施工の際は、KG パネルと目地が合わないよう、パネルの長
手方向と直交するよう施工します。
- ・ 薄物仕上げ等捨張合板が必要な場合
KG パネルと捨張合板の目地が合わないよう割付けます。この時 K
パネルと捨張合板のかかり寸法は 150mm 以上とします。
5. 5mm 捨張合板の固定はマックス社製のステープル 725MA 相当品
で固定します。(6列×9列=54本以上/3×6尺合板1枚)。

6. 施工検査表

検 査 内 容	検 査 結 果
レベルが出ているかを確認する。 (3/1000 mm以内)
壁廻り、柱廻りとの取り合いを確認する。
立ち上がり配管が、接触していないかを確認する。
ボルトの調整忘れがないかを確認する。
きわ根太やフリーフロアの接合部への固定が正しく施工されているかを確認する。
フリーフロアの上を歩き床鳴りがないかを確認する。